

新刊紹介

○宮城県植物誌編集委員会(編):宮城県植物誌 A4判, 370頁, 2017年7月9日. 宮城植物の会. 8,000円(送料込み)

本書は、宮城県のコケ植物と維管束植物の植物誌である。

本の構成は、口絵(宮城県野性植物目録編集のための地域区分図, 最古の標本, 絶滅した植物, 基準産地とする植物, 北限とする植物, 南限とする植物, 希な植物), 発刊によせて, 植物目録の今日的意義, 発刊によせて, 発刊のことば, 目次, 科目次, 宮城県の自然環境, 宮城県の植物相, 宮城県の植物相関連資料, 索引・名簿, 編集をおえて, と補完としてCDからなっている。

維管束植物の目録では, 学名, 和名, 県内の分布地, 日本内での分布で北限や南限になっている場合に記載がある。最後に日本と宮城県での環境省のRDBのカテゴリーがでている。宮城県の気候, 地形地質, 植生など全ての項目では, 文献を挙げて丁寧に説明されている。「宮城植物の会」が, 植物誌のために作業に取りかかったのは2012年という, それから5年費やし, それも67名という多数の方の総力を結集させただけあって本書は非常によくできている。すべて標本に基づいて編集されたので, その標本をあげると大部な本となって不便である。この点をCDで補ったため本書は利用し易いものとなっている。

本来宮城県に自生していない植物を, 帰化種, 逸出種, 国内帰化種, 国内逸出種として区別している。この考えを疑問に思うのは, 筆者のみであろうか。例えば, バラ科のバライチゴは本書では国内帰化とされているが, 自然の分布拡大とは考えられないだろうか。台湾やベトナムに普通で, 沖縄県や鹿児島県にはなく, 長崎県に生育するシマバライチゴや, 九州南部以南にしか生育しなかったリュウキュウバライチゴが静岡県で発見されたように。キイチゴ属植物は鳥散布が多いので, 長距離散布が普通である。

本書は, 宮城植物の会 (<http://www.miyagi-syokubutsu.org/syokubutsushi/postmail.html>) に申し込むと購入できる。

(鳴橋直弘)

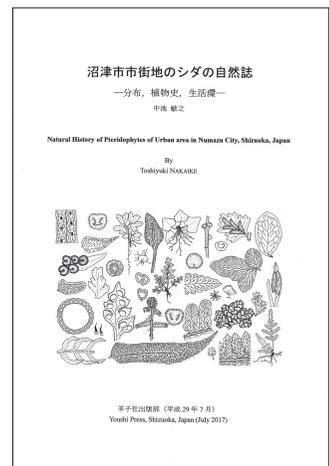
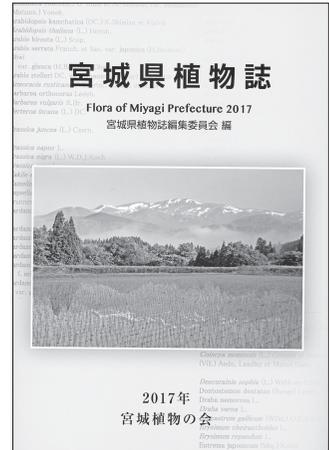
○中池敏之:沼津市市街地のシダの自然誌 A4判, 124頁, 2017年7月26日. 羊子社. 1,560円(税・送料込み)

本書は, 静岡県沼津市に生育しているシダ植物の観察記録とそれにまつわる多くの情報を書き加えたものである。構成は, まえがき, 沼津市の概要, 調査方法および調査地の概要, 種類の記載方法ならびに分布図の作成, 調査結果と考察, 全体の考察, 追加の種類, 線画, 分布図, 引用文献, 和名索引, 学名索引, からなっている。

本の前書きの冒頭に, “自分の住んでいる町の市街地に, どんなシダが, どこに生えているのか, 個々の種類はどんな特徴を持って, 市街地という環境の中で生活しているのか, また, どんな人々と関わり, そのシダが世界, 日本では, どのように分布しているのかなど, そんなことを知りたくて, この調査を始めた。”とある。この本はそれらの目的のための調査の結果を纏めたものである。

本書の読書後, 筆者の思うままを次に書く。

日本のスギナは1分類群だと思っていたが, この本で, スギナとオクエゾスギナの2品種あることを知った。マツバラが沼津市にもあるようであるが, 私も栽培のもの逸出があると想像していたが, 彼は温暖化以外の理由があるのではと疑問に思っている。セフリイノモトソウという雑種が存在することについて, 片方の両親であるオオバノイノモトソウがないのに, なぜこの雑種が生育しているのかについて6つの推測をしている。両親がいなくても雑種だけが存在するのは, 顕花植物ではよくあることだし, 散布体とコロナイジングの問題は種ごとに違うため, なぜそこにいるのかの理解は, 複雑である。以前イヌケホシダは珍しいシダであったが, 現在は一般的なシダになった。とくに近年では都市部での分布拡大が著しいと彼は言う。イヌケホシダは, 顕



花植物という共人植物で、人の居住地ではびこる植物だろうか。ここ 50 年で世界的にはびこりだしている植物であるが、なぜ最近になって勢力を拡大しているのか、私にも疑問である。カヌキヤマリョウメンシダという名前がでているが、私には初めての名前である。この植物のタイプ標本によれば、普通のリョウメンシダの学名も変わるといふ。本書にはこんな新しい情報も出ている。ジュウモンジシダは富山の山地ではどこにでも見られる植物であるが、若芽を山菜として食べるとおいしいと書かれている。これも知らなかったことである。

本書は、著者の中池敏之氏（〒410-0855 沼津市千本緑町2-8-6）に申し込むと購入できる。

（鳴橋直弘）

○近田文弘（文）・川嶋隆義（写真）：東京名木探訪 A5判，222頁，2017年8月22日，技術評論社，2,380円（+税）

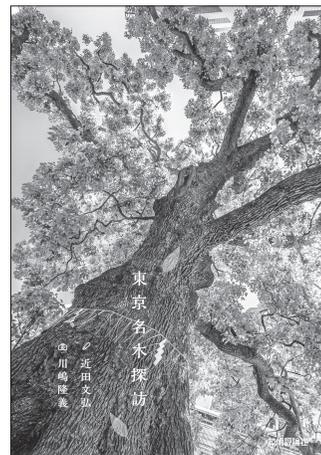
本書は東京都内にある「いわれ」のある木，大きな木，特徴的な木を選び解説した本である。巻頭部で著者は，“この本では，都心部から奥多摩山地，伊豆諸島までの東京都全体の巨樹，名木，いわれのある木を，樹木学的な観点から解説することに努めました”，と書いている。

本は，東京名木マップ，目次，エリア1. 都心編（江戸一番の植木屋伊藤伊兵衛，イチョウという樹木について，友情が結実させた研究 平瀬作五郎と池野成一郎，クスノキという樹木について），エリア2. 武蔵野・多摩地域編（ケヤキという樹木について），エリア3. 西多摩地区編（スギという樹木について，都内に残る一里塚），江戸城のモミ林，樹木散歩，おわりに，インデックス，参考図書からなる。本編中に，サクラのいわれを求めてなど8つの“樹木散歩”がある。取り上げられた名木のある場所と，そこへのアクセスが書かれている。

本書で使用されているどの写真も鮮明で綺麗である。また文章も簡潔で読みやすい。

取り上げられている植物は，どこにでもあるスギ，ヒノキ，カヤ，アカマツ，エノキ，ケヤキ，クスノキ，ヤブツバキ，ヤマザクラ，フジ，タブなどであって，日本国内ではどこでも普通に見られる樹木である。本書は東京と地域を限っているが，東京以外の人でも楽しめる本である。また，東京以外の所でも，このような本があれば，手軽に興味のある森林や樹木を見に行くことができ，ひいては植物への感心が増すと考えられる。

（鳴橋直弘）

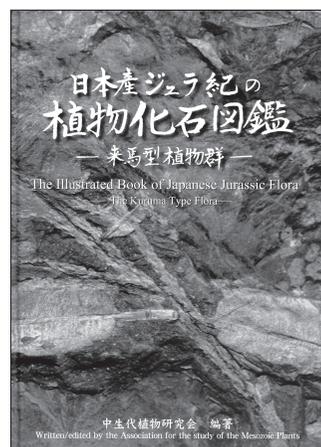


○中生代植物研究会（編・著）：日本産ジュラ紀の植物化石図鑑—来馬型植物群— A4版，2,000円，中生代植物研究会，2017年9月1日，124頁。

本書は，日本産のジュラ紀植物化石のうち，ジュラ紀前期の来馬型植物群を対象に，群馬県の岩室層と，長野・富山・新潟の各県に分布する来馬層群から産する植物化石をまとめたものである。化石に関する邦文の図鑑はこれまで数多く出版されてきたが，中生代の植物化石だけを対象にカラーで印刷された図鑑は，これが初めてだろう。また，従来の植物化石図鑑は研究者の目線で書かれており，科以上の分類群に関する解説が添えられることは，ほとんど無かった。本書には，科や目レベルの特徴の解説があり，近縁な現生種の写真も多用されるなど，初学者でも化石植物の特徴が想像しやすいように，工夫が施されている。

一方，本書に図示された標本には，故木村達明博士が研究に用いた標本（＝タイプ標本や出版論文に図示された標本）が数多く含まれている。1959年と1980年代に出版された原著論文では，当時の印刷技術の問題もあり，標本写真から化石の特徴を掴むのが難しかった。この点を補完する意味で，本書は研究者にとっても有用な一冊である。

強いて言えば，図示された標本が，タイプ標本や論文図示標本であることを明示し，標本を保管することの重要性も伝えられると良かったと思う。中生代植物研究会では次回作を検討中と伝え聞くので，次回作ではこ



の点が強調されることを期待したい。なお、購入希望の場合は、中生代植物研究会 会長 寺田和雄氏 (info@tyushokukai.net) まで。

(山田敏弘)

○増田恭次郎：写真集 立山の花めぐり A4判, 293頁. 2017年7月. 自費出版. 5,000円 (税込)

本書は立山に生育する植物の写真集である。本は、出版に寄せて、目次、はじめに、大葉類種子植物のセリ科から地衣植物のハナゴケ科、その他、各地域・登山コースで見えてきた植物、参考図書、謝辞、索引、あとがきからなっている。途中「風景」として10枚の写真がある。本編の植物の写真は、A4判の本の1頁に1種登場するので、迫力はある。ただ、数枚ピントの甘い写真が見られるのは、花が拡大されたせいだろうか。

以前に出版された立山に関する本よりも本書の掲載種数は多い。立山でこの本に載っていない花を見つけることは難しい。植物の配列や科名は最近の遺伝子によるAPG分類体系に依拠されている。

撮影は1977年から2013年の37年間の長期に渡っている。立山に登る時期は限られているので、多分開花の早いものは既に花弁が散っており、開花の遅いものは蕾だったことと思われる。その結果、丁度良い花の写真を撮るには何回かのチャンスが要求されることと思う。

1889年に立山で須川長之助によって日本で最初に採集されたチョウノスケソウ、立山産の標本で名付けられたタテヤマキンバイ、近代分類学の父と称されているスウェーデンのリンネを記念したリンネソウなど、有名な高山植物がこの立山には“てんこ盛り”である。この写真集は立山の花に限定されているが、立山には日本の一般的な高山植物が多く、高山植物に興味を持たれる人や北極地域の植物に関心を持たれる人にも役に立つものである。

購入希望者は、著者の増田恭次郎氏 (〒930-0886 富山市ひよどり南台 13 E-mail kyojiromasuda@gmail.com) に申し込むとよい。

(鳴橋直弘)

